

平成28年 第4回

教育委員会定例会会議録

平成28年4月12日（火）

港区教育委員会

港区教育委員会会議録

第2444号

平成28年第4回定例会

日 時 平成28年4月12日(火) 午前10時00分 開会

場 所 教育委員会室

| | | |
|--------|----------|-----------|
| 「出席委員」 | 委 員 長 | 小 島 洋 祐 |
| | 委員長職務代理者 | 綱 川 智 久 |
| | 委 員 | 永 山 幸 江 |
| | 委 員 | 澤 孝 一 郎 |
| | 教 育 長 | 小 池 眞 喜 夫 |

| | | |
|------------------|----------|-----------|
| 「説明のため出席した事務局職員」 | 次 長 | 益 口 清 美 |
| | 庶 務 課 長 | 佐 藤 雅 志 |
| | 学 務 課 長 | 新 井 樹 夫 |
| | 学校施設担当課長 | 奥 津 英 一 郎 |
| | 学校整備担当課長 | 瀧 澤 真 一 |
| | 生涯学習推進課長 | 横 尾 恵 理 子 |
| | 図書・文化財課長 | 山 越 恒 慶 |
| | 指 導 室 長 | 渡 辺 裕 之 |

| | | |
|-------|---------|---------|
| 「書 記」 | 庶務課庶務係長 | 佐 京 良 江 |
| | 庶務課庶務係 | 齊 藤 和 彦 |

「議題等」

日程第1 協議事項

- 1 平成28年度学級編制等について
- 2 平成28年度港区いじめ問題対策連絡協議会等の実施予定について
- 3 教職員の人事異動について
- 4 後援名義の3月分使用承認について
- 5 生涯学習推進課の3月事業実績について
- 6 生涯学習推進課の各事業別利用状況について
- 7 図書館・郷土資料館の3月行事实績について
- 8 図書館の3月分利用実績について

「開会」

○小島委員長 皆さん、おはようございます。ただいまから平成28年第4回港区教育委員会定例会を開会いたします。本日、教育政策担当課長は体調不良のため、欠席です。

それでは日程に入ります。

(午前10時00分)

「会議録署名委員」

○小島委員長 本日の署名委員は綱川委員にお願いいたします。

日程第1 教育長報告事項

1 平成28年度学級編制等について

○小島委員長 日程第1 教育長報告事項に入ります。

「平成28年度学級編制等について」説明をお願いします。

○学務課長 「平成28年度学級編制等について」説明をさせていただきます。

資料ナンバー1、1ページの総括表をご覧ください。学級数、在籍者数の前年との比較です。一番右の増減の部分をご覧ください。幼稚園では2学級、園児数は60名の増、小学校では10学級、児童数は405名の増、中学校では1学級、生徒数は26名の増で、全体で13学級、491名の増加となっています。

次のページからは、それぞれの内訳です。上段が28年度、下段が27年度の数値です。前年度との比較を中心に説明いたします。

それでは、2ページをご覧ください。幼稚園の学級編制です。幼稚園ごとの3歳児、4歳児、5歳児の学級数、定員、在籍数を記載しております。

合計と増減の欄をご覧ください。

初めに3歳児ですが、平成28年度、全体で定員を20名増やし、314名といたしました。結果として学級数は1学級増、在籍数は22名の増、充足率は98%となっています。

次に、4歳児です。定員と学級数の増加はありません。在籍数は7名減で、充足率は68%です。

最後に5歳児です。定員を30名増やし550名とし、学級数は1学級増、在籍数は45名の増、充足率は75%となり、前年度と比べ約4%上回っています。

また、3歳児の待機者数ですが、定員を20名増やしたにもかかわらず、募集時の待機者数は150名で、前年度の同時期の102名から48名ほど増加しています。

次に3ページ、小学校です。まず、1年生ですが、1年生の学級定員は、1学級35人編制です。前年度と比べて、学級数が増えた学校は、赤羽小学校、白金小学校、東町小学校の3校です。ちなみに芝浦小学校と港南小学校は学級数の増はありませんでした。逆に学級数が減った学校は、筈小学校です。

選択希望制の抽選となった学校は、表の一番右、「新1年抽選校」の欄に○で示しました。御成門

小学校、芝小学校、御田小学校、高輪台小学校、白金の丘学園白金の丘小学校、本村小学校、東町小学校の7校です。最終的に45名が繰り上がりました。

また東町の国際学級ですが、外国籍の入学者は6名となっており、外国籍で希望しながら入学できなかった児童はございません。

次に、2年生です。昨年度と同様、都の学級編制基準に基づき、35人で編制しています。前年度と比較し、全体で児童数が5名の増、学級数の増減はありません。

次に、3年生です。1学級40人で編制しています。3年生は、白金の丘学園白金の丘小学校、麻布小学校、青山小学校がそれぞれ1学級の増。全体では3学級増で112名の児童数増となっています。

次に、4年生です。芝浦小学校で1学級増、全体で1学級の増で、児童数は163名の増となっています。

5年生です。芝浦小学校、白金小学校、港南小学校、東町小学校で、それぞれ1学級の増、全体で4学級の増で、児童数は33名の増となっています。

最後に6年生です。芝浦小学校、白金の丘学園白金の丘小学校、それぞれ1学級増、高輪台小学校、白金小学校でそれぞれ1学級の減、全体で学級数の増減はありません。児童数は15名の増となっています。

次のページは日本語学級です。筈小学校の日本語学級の通級の人数を記載しています。昨年度と変わらず、全体で2学級、児童数は合計30名です。

なお、今年度の小学校の全体の傾向ですが、児童の増加数は、全体としてほぼ予測の範囲内でした。ただ、白金の丘学園白金の丘小学校については、新設校の人気で児童数が103名の増、東町小学校については、やはり国際学級の人気でしょうか、児童数が97名の増となっています。なお、本村小学校が児童数減となりましたが、それはやはり白金の丘学園白金の丘小学校や、東町小学校に流れた結果と考えています。

次に5ページ中学校です。

1年生は、昨年度と同様、都の学級編制基準に基づき35人で編制しています。前年度との比較ですが、御成門中学校、港南中学校、高陵中学校で各1学級の増、白金の丘学園白金の丘中学校で1学級の減、全体では2学級増、46名の生徒数増となっています。なお、学校選択希望制の抽選となった学校は、昨年度と同様、三田中学校と高松中学校の2校です。最終的に選択希望した人の中で、102名が繰り上がっています。

2年生以降は、1学級40人で編制しています。2年生は白金の丘学園白金の丘中学校で1学級の増、御成門中学校で1学級の減、全体では学級数は増減なし、児童数は23名の減となっています。

最後に3年生です。御成門中学校で1学級増、港南中学校、赤坂中学校でそれぞれ1学級の減、全体で1学級の減、生徒数は3名の増となっています。

なお、今年度の中学校の全体の傾向ですが、多少の増減はありますが、予測の範囲内です。

最後に6ページ、小学校・中学校の特別支援学級です。

最初に小学校の固定学級です。1学級の増で児童数の増減はありません。

通級学級は、1学級の減、児童数の増減はありません。

下の表が中学校です。固定学級全体では、学級数は1学級の増、生徒数は6名の増となっています。

特別支援学級の児童・生徒数について、最近の傾向は、若干増加傾向です。

説明は以上です。

○小島委員長 ただいまの説明に対して、何かご質問ございますか。

○澤委員 数年前は、小規模校でどうなるのだろうか心配した学校もありましたが、今では、そういった心配はほとんどなくなり、新しい学校の用地の取得という、また違った心配に変わりましたね。そんな中で、小学校4年生の増加が163名と、他の学年と比べて突出していますが、これはどうしてですか。

○小島委員長 前年度の4年生の在籍者数と比べると、突出して多くなりますが、前年度の3年生1,322名が繰り上がって、今年度の4年生1,333名になったわけで、10名ぐらい増えただけです。

○澤委員 そういうことですね。学年によって在籍数に大小があっても、児童数が増えているということは良い傾向だと思います。

○学務課長 確かに芝浦小学校、港南小学校に4年生が多いという傾向がありますが、理由は把握できておりません。

○綱川委員 白金の丘学園白金の丘中学校が、去年、1年生が60名入学し、小学校の2校から上がってくるより、大分増えたということで、期待したのですが、今年度は35名に減ってしまいました。どうして減ってしまったのか気になるのですが、何か理由があるのですか。

○学務課長 平成26年度の白金の丘学園白金の丘小学校の卒業生が39名でした。ですから、27年度は、下から上がってくる生徒以外にも、数十名が入学していたということです。今年度はそれに比べて、若干入学者数が減っております。

○小島委員長 白金の丘学園白金の丘中学校には、去年、建物が新しくなった建物効果で、周りの地区の小学生が数多く入学してきました。今年入学者の数が減りましたが、何か理由があるのでしょうか。白金の丘学園白金の丘中学校の授業内容や生活態度等に、何か問題がありましたか。

○学務課長 先程申し上げたように、白金の丘小学校は、依然として新設校人気がありますが、中学校は入学希望者が減少しております。

はっきりとした理由はわかりませんが、白金の丘学園の学区の小学校6年生の区立中学への入学率は、約38%となっており、全体からすると、やや低い状況です。

○綱川委員 かつて、六本木中学が開校当時、人気が高くなり、数年間は入学時に抽選を行ったのですが、数年後には1クラスになってしまいました。白金の丘小学校の人気を新設校効果だけで終わらせないために、きちんと問題を分析していかなければいけないと思います。

○澤委員 新しい校舎で人が集まるのは、ほんの数年なので、授業内容の充実等を一生懸命やらないと、ブームが去ってしまいます。

○小島委員長 特色を持たせるために、白金の丘中学校に国際学級をつくったらどうでしょうか。港区では外国籍の住民が1割弱いますので、その方たちの子どもの教育のためにも、国際学級を設立したらいいと思います。

○指導室長 今年度、白金の丘中学校の入学者数が、昨年度より減ったことについては、教育委員の皆さんと同様、我々も危惧しているところです。開校1年目に、一貫教育の仕組みやその良さを、地域の方や、保護者の方に十分に伝え切れなかった部分があることが、一つの理由として考えられます。

今後は、この経験を生かし、「9年間かけて、どういう子どもたちを育てるか」という理念等をしっかりと地域、保護者に説明し、一貫校としての教育を進めていかなければならない。そんな視点で学校の方に指導・助言していきたいと思っています。

いずれにしても、小学校1年生がこれだけの人気があります。今後は、その子どもたちのうち、何%が白金の丘中学校への進学を希望するかという数値目標等を学校が定め、そのために何をしたらいいか、戦略的に白金の丘中学進学希望者数を増やしていくということを考えさせるように指導していきたいと考えています。

○澤委員 白金の丘学園は、去年新設されたばかりなのに、今年度、副校長先生が2人かわってしまいました。小中一貫校として2年目にもかかわらず、副校長先生が2人かわってしまったということが、学校運営に影響はないでしょうか。

○指導室長 影響があっては困ることですので、それについては、校長に新しい副校長を指導するように助言しています。人事異動に関し、さまざまな理由で、異動を承認せざるを得なかった現状もあり、副校長がかわったことによる影響が、学校活動、教育活動等、子どもたちに影響がないようにしていかなければいけないと考えています。

○小島委員長 ほかに何か質問ございますか。

○永山委員 確認ですが、中1のみが35名定員で、中2からは40名ということでしょうか。

○学務課長 そのとおりです。

○小島委員長 ちなみに小学校も1年生だけ35名定員ですか、2年生まで35名定員ですか。

○学務課長 2年生まで35人です。

○小島委員長 ほかに何かございますか。

では私から質問します。3歳児の人気が引続きかなり高いようですが、先程のお話で3歳児の待機児童は、前年が102名で今年度が150名でした。

毎年のように3歳児の定員を増やしても、一向に待機児童は減らず、むしろ増加しているということは、それだけ3歳児のニーズが高いということです。引き続き、3歳児の問題について、よく検討していただきたいと思っています。

○学務課長 麻布幼稚園、白金台幼稚園の3歳児クラスを増やすことは検討中です。また、芝浦幼稚園、港南幼稚園の分園も検討中ですので、もう少し時間をいただきたいと思います。

○小島委員長 私立幼稚園の経営を圧迫することは避けなければいけません、その点の現在の状況においては、公立の3歳児の増員は可能と思われますので、待機児童を少しでも減らすための増員を検討願います。

○庶務課長 学務課長の説明に一つ補足します。白金台幼稚園、麻布幼稚園は具体的に増築を順次進めています。赤羽幼稚園と本村幼稚園は物理的に増築が困難で、現在2年保育のみです。

赤羽幼稚園は、今後、学校全体の改築の中で増員できる可能性が十分にあります。本村については、非常に厳しい規制の中で、現在、調査・検討を進めています。

また、1学級の定員数を20名にしているところと22名にしているところがあります。芝浦幼稚園だけは例外で35名なのですが、園長先生方の意見も交え、実態を見ながら、実現可能な定員数は何名なのかということも、引き続き検討していきたいと思います。

○小島委員長 現状をよく把握して、定員数等も柔軟に対応してください。

○澤委員 いずれにしても、教育委員会の基本方針は、私立幼稚園の経営を圧迫しない程度に、3歳児の定員をどうやって増やすかということです。

個人的には、かつては中之町幼稚園だけしか無かった3歳児クラスが、現在10園にまで増えたことは、大変な努力の結果だと思います。

しかし、入れなかった人にとっては深刻な問題で、待機児童が全体で150名もいるということは、大変残念なことです。解消するように、努力しなくてはいけないと思います。

○庶務課長 澤委員のご指摘のとおり、4歳児の充足率が今年度は下がりました。私の記憶が正しければ、3年前、青南幼稚園の4歳児が抽選だったということがありました。当時と比べ、今年、青南幼稚園は非常に落ち着いていると感じますが、実は、動向がつかめなくて、苦労しているところです。3歳児から4歳児に上がることをどう考えていくかを、ただ画一的に考えるのではなく、地域や、社会の状況等を見極めて、実情に合った形で進めることが大事だと思っています。

○澤委員 庶務課長が言われているように、園や地域によっても状況が違うので、一律にしてしまう必要は無いと思います。様々な状況を見極め、柔軟な対応で検討していただけるようお願いします。

○小島委員長 ほかに何かございますか。

○永山委員 今後のデータ分析に必要なと思うので、学域内の中学校に何%とか、私立中学校に何%とか、各小学校の進学状況のデータを出していただきたいと思います。

○学務課長 集計が終わり次第、情報提供をさせていただきます。

○小島委員長 毎年、委員にとっては非常に興味深い資料です。

○澤委員 教育委員会としては、区立中学校への進学率が、みなさんに一生懸命やっていたている割には、目に見えて改善されないことが残念です。

○小島委員長 事務方並びに各学校の皆さんに頑張っていたいただいた結果、区立中学校のレベルは大

変に上がっていると思います。私立中学校に負けないぐらいの高いレベルになっているという自負は持っているのですが、区立中学校へ入学する生徒の割合が、なかなか増えないことが残念です。ほかに何かございますか。

(なし)

2 平成28年度港区いじめ問題対策連絡協議会等の実施予定について

○小島委員長 次に、「平成28年度港区いじめ問題対策連絡協議会等の実施予定について」説明をお願いします。

○指導室長 それでは、港区いじめ問題対策連絡協議会等の実施予定について、ご説明いたします。資料ナンバー2をご覧ください。

平成27年3月の教育委員会臨時会におきまして、ご審議いただきました港区いじめ問題対策連絡協議会規則の制定について、及び港区教育委員会いじめ問題対策会議規則の制定について、そして港区教育委員会いじめ問題調査委員会規則の制定について、に基づく各会議の平成28年度の予定をご報告いたします。

まず1ページ(1)平成28年度港区いじめ問題対策連絡協議会の構成員の一覧表です。

次に、2ページ(2)平成28年度港区教育委員会いじめ問題対策会議の構成員の一覧表です。

続いて3ページ(3)平成28年度港区教育委員会いじめ問題調査委員会の構成員の一覧表です。昨年度と構成員が異なるところは、人事異動によって幹部職員が変更になった、校長会の担当が一部変わった、中学校のPTA連合会の会長が変更になった等の理由によります。

3ページ2「スケジュール及び内容について」に移ります。

(1)平成28年度港区いじめ問題対策連絡協議会ですが、1回目を6月1日水曜日に開催する予定です。議事は、昨年度の報告、運営方法、年間スケジュールについて等です。また、港区いじめセーフティネットコミュニティ事業の報告及び今年度の取り組み方向性について、意見交換を行っていく予定です。

(2)の関係者会議ですが、こちらは5月開催予定で調整をしています。

また、(3)(4)(5)の平成28年度港区教育委員会いじめ問題対策会議は、第1回を7月4日、第2回を11月18日、第3回を平成29年2月10日に開催する予定です。

内容は、平成27年の報告や、先程申し上げました港区いじめ問題対策連絡協議会の報告、そして第2回、第3回では、その年度中のいじめの現状、事例等を議事として進めていく予定です。各会議の内容については、教育委員会の場で改めてご報告する予定です。

説明は以上です。

○小島委員長 ただいまの説明に対して何か質問はございますか。

○澤委員 他の地方自治体同様、港区もいじめについて、真剣に取り組んでいるので、大きな問題は起きていないと思っています。いじめは、問題が大きくなってから初めて周囲が認識するというケースが多く、その原因等も様々です。多方面の関係者の協力で、しっかりと対策をたてていただ

いていることに、教育委員として感謝いたします。

○指導室長 今、澤委員がおっしゃられたように、いじめというのは、未然防止の取り組みが非常に大切であると考えています。各校でハイパーQ-Uの検査等を実施し、子どもたちの様子をどれだけ学校がしっかりとつかんでいるか、また保護者から、子どもたちからの信号を、学校がどれだけキャッチできるかということが、大変重要なポイントだと思っています。

いずれにしても、いじめはどの学校にも起こり得るということを、決して忘れることなく、また一度起きたいじめの事例についても、学校が継続してしっかり見守っていくという、そういうスタンスを、引き続き指導していくことが大切だと考えています。

○小島委員長 指導室長のおっしゃるとおり、日頃、学校で、児童のちょっとした変化を先生方がどれだけ素早くキャッチできるか、それに対してどう対応するかということが非常に大事だと思います。今後とも学校の指導をよろしくお願いします。

○網川委員 数日前に放送大学で教育心理の講義を放送していました。早稲田大学の河村先生がハイパーQ-Uの話をしていただいたのですが、やはりこれは調査をするだけではだめで、相当専門的な詳しい分析をし、そこから何かを読み取ってこそ、成果につながると感じました。ハイパーQ-Uの検査後の取り組み・活用等は、各校に任せている部分もあると思いますが、指導室として指導していることはありますか。

○指導室長 導入の時期に講演を行い、検査後の分析についても周知しました。その後、個別に講師を招き、ハイパーQ-Uの分析等について、学校の実態に合わせて指導を受けているところもあります。

いずれにしても、活用することが非常に大事なので、我々もそういった各校独自に開催される専門の講師をお招きした勉強会等にも同席し、しっかりと学びながら、他校への事例の伝達を図っていきたいと考えています。

なお、毎年、年間を通して生活指導主任会の場で、いじめのことが話題になりますが、このハイパーQ-Uの分析活用について、昨年度は2回、分析活用の実践報告をいたしました。引き続き、ハイパーQ-Uがより活用されるよう、さまざまな機会を通じて、学校に働きかけていきたいと思っています。

○網川委員 よろしくお願いします。

○小島委員長 ほかに何かございますか。

(なし)

○小島委員長 いじめ問題対策は非常に大事なことなので、念には念を入れてやってください。よろしく願いいたします。

3 教職員の人事異動について

○小島委員長 次に、「教職員の人事異動について」、説明をお願いします。

○指導室長 「教職員の人事異動について」、教育委員会資料ナンバー3に基づいてご説明します。

この一覧表の数字について、上段から順番に、どの学校のどの先生がこの数字の対象になるかということを、一つ一つ説明させていただきます。

まず「校長・園長」についてです。「転出等」のところをご覧ください。

退職は小学校3名です。御成門小学校、松浦校長、港南小学校、古家校長、赤坂小学校、曾根校長です。中学校は、青山中学校、福井校長、幼稚園は、芝浦幼稚園、木村園長です。

再任用の退職は、白金小学校、高橋校長です。中学校・幼稚園はございません。

校長・園長からの区の内転です。小学校の1名は南山小学校から御成門小学校に転出しました和田校長、そして中学校は、高陵中学校からお台場学園港陽中学校に転出した新庄校長、そして区内転の2名ですが、白金台幼稚園から芝浦幼稚園の山形園長、そしてにじのはし幼稚園から白金台幼稚園の新井園長の2名です。

区外転出の2名です。こちらは小学校籍となっております。青山小学校の廣瀬校長、そしてお台場学園港陽小学校籍としてご勤務いただいております、白石校長の2名です。中学校・幼稚園はございません。

そして、自治体派遣の終了ですが、小学校・中学校はございません。青南幼稚園の西澤園長が自治体派遣終了ということで、北区に転出されたので、1名です。校長・園長の転出等の合計は、小学校7名、中学校2名、幼稚園4名です。

続いて転入をご説明します。

まず再任用の新規として校長になられた先生です。赤坂小学校の曾根先生、そして青山中学校の福井先生です。

そして区内転の昇任です。小学校3名とありますが、そのうち昇任が2名です。先程申し上げたように、御成門小学校校長の和田先生が区内転で1名。そして白金小学校副校長から港南小学校校長に昇任された船木先生、白金の丘学園白金の丘小学校副校長から南山小学校校長に昇任された明田川先生の2名が昇任です。

そして中学校の1名ですが、高陵中学校校長の新庄先生が、お台場学園広陽中学校校長として異動されました。

最後に、幼稚園の区内転4名ですが、先程申し上げました芝浦幼稚園の山形園長、白金台幼稚園の新井園長、そして、港南幼稚園副園長から青南幼稚園園長に昇任された青山園長、高輪幼稚園副園長から、にじのはし幼稚園園長に昇任された酒井園長の2名を加え、合計4名です。

区外転入です。小学校は、東久留米教育委員会から白金小学校の校長先生に着任された加納先生、足立区立東栗原小学校から青山小学校の校長に着任された下城先生の2名です。

そして中学校です。昇任者1名です。品川区立富士見台中学校副校長から、高陵中学校校長になられた平川先生です。幼稚園はございません。

転入等の合計は、小学校6名、中学校は3名、幼稚園4名です。

先程、転出等のところで、小学校7名、中学校2名だったのに対し、転入等では、小学校6名、中学校3名となっておりますが、これはお台場学園港陽小・中学校兼任の校長が、転出された白石先

生が小学校籍の校長先生であったのに対し、転入された新庄校長先生が中学校籍の校長先生として着任されたためです。

校長・園長については以上でございます。

続いて、「副校長・副園長」先生方についてです。

まず転出ですが、退職、再任用退職はありません。

次に、区内転です。白金の丘学園白金の丘小学校の明田川先生、白金小学校の船木先生、お台場学園港陽小学校の辻先生の3名です。そのうち、明田川先生と船木先生は、校長先生として昇任されています。

中学校は3名です。昇任はありません。三田中学校からお台場学園港陽中学校の副校長に今橋先生、港南中学校から白金の丘学園白金の丘小学校副校長に相田先生、そして青山中学校から三田中学校副校長に清水先生の3名です。

続いて幼稚園です。先ほど申しあげました、酒井先生と青山先生の2名が昇任です。本村幼稚園の浅倉副園長先生が南山幼稚園へ、南山幼稚園の河合副園長先生が本村幼稚園へ区内転となっています。

そして区外への転出です。小学校は4名です。芝小学校の高見副校長先生、高輪台小学校の瀧田副校長先生、麻布小学校の霜田副校長先生、そして南山小の清水副校長先生が区外へ転出されました。

中学校です。1人昇任ということで、白金の丘学園の白金中学校の阿部副校長先生が、校長先生として文京第三中学校の校長先生に昇任しました。また、お台場学園港陽中学校の櫻井先生が世田谷区の中学校に副校長として異動されました。

次に転入です。杉並区の高円寺北子供園の國吉先生が港南幼稚園の副園長先生として転入されました。再任用の新規はありません。

区内転です。小学校は昇任が1名で、お台場学園港陽中学校の久野先生が白金の丘学園白金の丘中学校副校長に昇任で着任しています。そしてもう1名がお台場学園港陽小学校の辻先生が、白金小学校の副校長として区内転されました。

次に中学校ですが、4名のうち1名が昇任です。六本木中学校の黒崎主幹教諭が、青山中学校の副校長として昇任し、残りの3名は、先程転出のところで申しあげた清水先生、相田先生、今橋先生の3名です。

そして幼稚園の2名についても、本村幼稚園の浅倉先生が南山幼稚園へ、南山幼稚園の河合先生が本村幼稚園へ、それぞれ異動されました。

そして区外の転入ですが、小学校へ5名、中学校へ1名の転入があります。小学校5名のうち3名が昇任で、高輪台小学校、隈部副校長先生、南山小学校、大矢副校長先生、そしてお台場学園港陽小学校に山口先生。以上3名が主幹からの昇任です。そして芝小学校の菊原先生、麻布小学校の濱尾先生の2名が区内転入となります。

中学校の1名は、港南中学校に異動しました鈴木格也副校長先生です。

副校長・副園長の合計数ですが、小学校・中学校については、変わりありませんが、幼稚園については、全都的に人数が足りないため、残念ながら1名未配置校が出ています。

小学校・中学校ということでお話をしましたが、白金の丘学園は、昨年度ご審議いただいたように、小学校籍の副校長が2名、中学校籍の副校長が1名ということで、小学校籍に相田先生と松島先生、そして中学校籍として久野先生の3名の体制で進めています。これはあくまでも東京都の基準で、この3名のもともとの籍を指定するものですが、一貫校ですので、いずれも兼務発令をし、小学校も中学校も兼ねて勤務できる形をとっています。校長の方針に基づき、松島先生を小中一貫の副校長、相田先生を小学校の副校長、久野先生を中学校の副校長に配置しています。

ただいまご説明した理由により、昨年度ご審議いただいた内容から、多少変更された部分がありますが、ご了解いただければと思います。

最後に教員ですが、大変人数が多く、今後、学級増や、期限付き職員の任用等、十分に時間を取ってご報告できないため、詳しい説明は割愛させていただきます。

いずれにしても、小学校教員数は、学級増等があり増加傾向です。中学校も、同様に増員が予想されます。幼稚園も、学級増が2クラス、主任職の新設等もあり、同様に増加しています。事務・栄養士等の人数の変動はございません。

説明は以上です。

○小島委員長 ただいまの説明に対して、ご質問はございますか。

○澤委員 若い先生が増えているようですが、若い先生を育てることが、学校側としても非常に大きな課題ですね。小学校の新規採用40名とありますが、このところ毎年このくらい採用していますか。

○指導室長 小学校、中学校とも、大体このぐらいの数字で推移しています。

今年度は、昨年度よりも少し増えています。期限付き職員も含め、増加傾向になりつつあるようです。今、澤委員がおっしゃったように、若い教員の授業力、指導力等の育成が、喫緊の課題ですので、OJTも含め、しっかりと研修の予定を組み、育成していきたいと考えています。

○澤委員 OBの先生方のNPOが大いに活躍していると聞いていますが、活用していただいていますか。

○指導室長 今、澤委員がおっしゃった、みなと授業錬成アカデミーというNPO法人ですが、実際に初任研修の場でも紹介し、各学校で個別の育成にかかわるところで、ご指導いただけることを周知しています。校長先生のご経験をお持ちの先生方等もいらっしゃいます。また港区の教育について、さまざまな情報、知識等をお持ちの先生方ばかりですので、我々も非常に信頼しています。また、総会等もございます。教育委員の先生方にもご案内を差し上げますので、ぜひご参加いただければと思っております。

○澤委員 若い先生の授業力、指導力等の育成は、きっちりやらなければいけないけれど、現役の先生は大変忙しい。そこでOBの先生を活用するということは、大変良いことだと思います。現役時代とは違った視点で若手教員を指導してくれると思います。あわせて現任教員の負担の軽減にも

つながります。ぜひよろしくをお願いします。

○指導室長 教員育成の現場に、そういったご経験を持たれている先生方のお力をお借りするということは、非常に大切なことだと考えています。

教員育成の現場と情報交換をしながら、今、何が必要なのかを考え、必要に応じて、NPOの活用も検討してゆく必要があると考えています。

○綱川委員 先程の異動についての表ですが、4の中学校のところに、※がついて「加配1(副校長要員加配)」と書いてありますが、これは上の2の副校長に含まれているのですか、それともその副校長とは別に1人どこかに加配で入れているのですか。

○指導室長 今、主幹教員としてお勤めの先生が、副校長先生になる可能性があるということです。今後、副校長先生になられた場合、学校の教員が1名欠員になってしまいますので、年度途中で承認されることを想定し、東京都に要員の加配を申請した結果、定数よりも1名増加ということで配置されています。

○綱川委員 どの中学ですか。

○指導室長 高陵中学校です。

○小島委員長 ほかに何かございますか。

3の「教員(小学校)」の退職の欄ですが、定年で退職した先生が6名となっているのですが、転入欄を見ると、再任用新規で5名となっています。この再任用新規で採用された5名は、左側の定年退職の中の6名の中から選ばれてきたのでしょうか。

○指導室長 普通退職や、勸奨退職の場合は、再任用として任用されることはありませんので、定年退職された先生方の中から、5名の方が再任用新規としてお勤めいただいているということです。

○小島委員長 小学校も中学校も、再任用できる人は、できるかぎり再任用しているということになるのですか。

○指導室長 ご本人の希望により、再任用としてお勤めいただいているということです。

○小島委員長 先程澤委員からもお話がありましたように、長年お勤めいただいた先生方に、なるべく残っていただきたいのですが、再任用できる人数にも限りがあるということなのですね。もう少し多く再任用してもいいのではないかと思います。

○指導室長 普通退職は、まだ勸奨退職の年齢にならない方たちです。他県での採用が決まった、健康上の理由等、退職の理由はさまざまです。定年退職された小学校の先生場合、6名のうち5名の方が、また現場でお力を発揮していただけるということで、お残りいただけたものと考えています。

○綱川委員 教育センターなどに来られている研究相談員の方は、他区からの再任用の方も結構いらっしゃると思います。小・中学校の教員の定年退職者が0の場合等に、他区から再任用で来られる可能性はあるのですか。

○指導室長 再任用の場合は、新たな任用という形になりますので、自区で退職した職員の再任用が原則です。しかし、区同士で希望があり、互いに受け入れるということであれば、他区からの再

任用も可能です。

○小島委員長 区教委同士の人事交流は、組織だっで行われていないということですか。

○指導室長 御本人が希望されるような場合は、個別の案件として調整して決めることとなります。

○永山委員 児童数の増加に伴い教員数も増えているのですが、事務職員の数は変わっていません。児童・教員何名に対して事務職員何名という決まりはないのですか。

○指導室長 小・中学校の都の事務職員の定数は各校1名です。児童数が多い場合でも、原則として1名です。港南小学校は、事務職員の定数は1名ですが、東京都に申請し、臨時職員として配置できる形をとっています。

なお栄養士は、学校数のおよそ2分の1を東京都の職員で配置しています。

○庶務課長 最近では、児童数の増加に伴い、平成26年度から芝浦小学校に、区の事務職員を配置しています。

○小島委員長 よろしいですか。ほかに何かございますか。

(なし)

4 後援名義の3月分使用承認について

5 生涯学習推進課の3月事業実績について

6 生涯学習推進課の各事業別利用状況について

7 図書館・郷土資料館の3月行事实績について

8 図書館の3月分利用実績について

○小島委員長 「後援名義の3月分使用承認について」「生涯学習推進課の3月事業実績について」「生涯学習推進課の各事業別利用状況について」「図書館・郷土資料館の3月行事实績について」「図書館の3月分利用実績について」、この5件の定例報告については、配布資料のとおりですが、各案件について何かご質問ございますか。

(なし)

○小島委員長 それでは、本日本日予定している案件は、全て終了しました。庶務課長、そのほか何かございますか。

○庶務課長 特にございませぬ。

「閉会」

○小島委員長 それでは、これをもちまして閉会といたします。

次回臨時会は、4月26日火曜日、午後3時から開催予定です。よろしく申し上げます。

これで終了させていただきます。お疲れさまでした。

(午前11時09分)

会議録署名人

港区教育委員会委員長 小 島 洋 祐

港区教育委員会委員 綱 川 智 久